法医病理学

担当講座	法科学講座 法医学分野	問合せ先	法医学分野									
分野責任者	髙宮 正隆 教授	連絡先	内腺 5682									
担当教員	高宮 正隆 教授											
人材育成の 基本理念	法医病理学、法医中毒学などに関する専門的知識を有し、法医解剖を遂行できる人	材の育成する。	,									
主な研究内容	損傷・窒息・異常環境死・内因性急死等の病態生理に関する免疫組織化学および分子生物学的手法を用いた研究。法医解剖に結び付く実験が望ましい。											
	教育成果			該当するディプロマポリシー								
教育成果 (アウトカム)	法医病理学に関する基礎研究、症例研究を行う能力を身に着けるとともに、自ら研究課題を立案し課題を解決できるようになる。 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8											
	達成目標		対象科目									
	(1)生命科学や、医学研究のための基本的な知識を活用できる		ベーシックセミナー、法医病理学実験 1	~ 4								
	(2)適切な研究デザイン、解析法を立案し実施できる。	研究方法論、法医病理学実験 1 ~ 4										
	(3)得られた研究結果を正しく解釈できる。		特別研究ⅠⅢ、法医病理学実験1~4									
達成目標	(4)解析結果ををまとめ、発表できる(英文が望ましい)		特別研究ⅠⅢ . 法医病理学実験 1 ~ 4									
	(5)病因の解明や治療法の発展に寄与できる。		特別研究ⅠⅡ Ⅲ、法医病理学実験 1 ~ 4									
	(6) 次世代の人材育成に貢献できる。		特別研究 I II III、大学院セミナー									
	(7)論理的な法医病理診断法を習得する。		法医病理学講義 1~3									
	(8)法医解剖に必要な手技を習得する。		法医解剖修練									
	(9)免疫組織学的・分子生物学的実験を遂行できる。		法医病理学実験 1 ~ 4									
	(10)法医病理学的実験を遂行できる。											
資格取得等	1) 死体解剖保存法における死体解剖資格 2) 日本法医学会法医認定医											
履修に関する情報	1) が体解剖体存法におりる光体解剖質格 2) 日本法医子芸法医認定医 入学時より前半の2年間の間に共通教育科目の必修科目「研究方法論(2単位)」に加えて、選択必修科目を履修することが望ましい。											

●在学中に履修できるカリキュラム

区分配当年次			科目名			コマ数	単位	修了までに 必要な単位	備考
		1年	講義	法医病理学講義 1	通年	30	4		
		2年	講義	法医病理学講義 2	通年	30	4		
研		3年	講義	法医病理学講義 3	通年	30	4		
究	必	4年	演習	法医解剖修練	通年	30	4	20単位	
特	修	1年	実験	法医病理学実験 1	通年	15	1	20年位	
論		2年	実験	法医病理学実験 2	通年	15	1	İ	
		3年	実験	法医病理学実験 3	通年	15	1		
		4年	実験	法医病理学実験 4	通年	15	1		
特	21	2年		特別研究 I (初期審査)	通年	8	1		W0001 fr the UPA 1 24 4
別研	必修	3年		特別研究Ⅱ (中間審査)	通年	8	1	4単位	※2021年度以降入学者 対象科目
究				特別研究Ⅲ(論文作成)	通年	15	2		, 1911 H

※他分野の単位取得は分野責任者に相談の上、教務課へ連絡してください。

コード		MD131110	10			MD131110)20			MD131110	30			MD13111040			
科目	法医病理学講義 1				法医病理学講義 2				法医病理学講義 3				法医解剖修練				
科目責任者		髙宮正隆				髙宮正隆				髙宮正隆				髙宮正隆	i		
担当者	高宮正隆				髙宮正隆				髙宮正隆				髙宮正隆	No.			
会場	法医学分野実習室					法医学分野実	習室			法医学分野実	習室			法医解剖	室		
区分等	区分	講義	単位	4	区分	講義	単位	4	区分 講義 単位 4				演習	単位	4		
主な 授業内容	回数 初歩的な	通年30コマ 法医病理学	配当年次	1		回数 通年30コマ 配当年次 2 回数 通年30コマ 配当年次 3 基本的な法医病理学 専門的な法医病理学							回数 通年30コマ 配当年次 4 法医解剖手技				
教育成果	ウ 息、異常環境死、内因性急死等に関わる病態 息、異常野の初歩的な部分を説明できる。 の基本的					により法医病理学を学び、損傷、窒 常環境死、内因性急死等に関わる病態 的な部分を説明できる。			専門書により法医病理学を学び、損傷、窒息、異常環境死、内因性急死等に関わる病態 の専門的な部分を説明できる。				法医解剖症例を通し、法医解剖に必要な手技 を習得する。				
S B B 標達	分野の達 7	成目標			分野の達 7	彪成目標			分野の達成目標 7				分野の達成目標 8				
特記事項	【2021年	度以降の入学者】	全講義後編 記載が不十	終了後は述 十分な場合	東やかに 合は、担当		書」をWe			ードすること。 でに再提出するこ。	と。		•				
評価 方法	上)を合	度以降の入学者】 格とする(60点未) 度までの入学者】	満は再提出	出)。			る。成績に	t、ABCI	O (A:100	~80点、B:79~70g	点、C:69~	~60点、I):59~0点)の4段階評価とし	ABC (6	60点以	
講義日程	時間割参	照															
教科書 参考書																	

コード	MD13111050 MD13111060					60			MD131110	70		MD13111080				
科目		法医病理学等	実験 1		法医病理学実験 2				法医病理学実験 3				法医病理学実験 4			
科目責任者		髙宮正隆				髙宮正隆			髙宮正隆					髙宮正	隆	
担当者	髙宮正隆				高宮正隆				高宮正隆				髙宮正隆			
会場	法医学分野実験室					法医学分野実	験室			法医学分野実	験室			法医学分野	実験室	
区分等	区分	実験	単位	1	区分	実験	単位	1	区分 実験 単位 1			区分	実験	単位	1	
主な授業内容	回数 初歩的な	通年15コマ 法医病理学実験手	配当年次	1	基本的な	通年15コマ 法医病理学実験手持	配当年次 2 回数 通年15コマ 配当年次 3 歳手技 専門的な法医病理学実験手技						回数 通年15コマ 配当年次 4 専門的な法医病理学実験手技			
教育成果	東験動物、試薬の扱いなど、初歩的な法医病 ウ ウ 理学実験を遂行できる。				基本的な法医病理学実験を遂行できる。				免疫組織化学的、分子生物学的手技を用いて 専門的な法医病理学実験を遂行できる。				免疫組織化学的、分子生物学的手技を用いて 専門的な法医病理学実験を遂行できる。また 結果を学会、論文等で適切に提示できる。			
S B B 標 C	分野の達成目標 到 1, 2, 3, 4, 5, 9, 10				分野の達成目標 1, 2, 3, 4, 5, 9, 10			分野の達成目標 1, 2, 3, 4, 5, 9, 10				分野の達成目標 1, 2, 3, 4, 5, 9, 10				
特記事項	【2021年 「受講票	に対する事前事後学作 F度以降の入学者】 現・履修報告書」の記 F度までの入学者】	全講義後終 記載が不十	冬了後は述 一分な場合	速やかに 合は、担当	「受講票・履修報告 á教員がコメントを	書」をWeb				と。		ı			
評価 方法	上)を合	F度以降の入学者】 お格とする(60点未活 F度までの入学者】	満は再提出	出) 。			る。成績は	: ABC	D (A:100	~80点、B:79~70点	点、C:69~	~60点、I	D:59~0点	i)の4段階評価と	L、ABC(6	60点以
講義日程	時間割参	※照														
教科書参考書																

●各科目	1の投き	兼計 画														法医:	柄埋字
コード		MD131190)10			MD131190	20			MD131190)30						
科目		特別研究	Ι		特別研究Ⅱ				特別研究Ⅲ								
科目責任者		各(正)指導	教員		各(正)指導教員				各(正)指導	教員							
担当者		各指導教員	į		各指導教員				各指導教員	Į							
会場	各指導教員と相談の上決定					各指導教員と相談	の上決定			各指導教員と相談	(の上決定						
区分等	区分	演習 通年8コマ						演習 通年15コマ	単位配当年次	2							
主な授業内容	・生命科学や研究手法の基礎的な知識 ・生命科学や研究手法の専門的な知識 ・ ・研究計画調書の作成 ・中間審査の準備 ・							・生命科学や研究手法の発展的な知識 ・論文作成 ・最終試験の準備									
教育成果	ける。研究内容の討議を行い、質問に対し、 適切に答えることができる。 〈初期審査〉2年次末までに実施。 研究指導教員同席のもと非公開で実施する。 研究計画調書等に基づき、研究の概要につい て口答で説明し、その妥当性について審査を				ける。研究内容の討議を行い、質問に対し、 適切に答えることができる。 <中間審査>3年次末までに実施。 研究指導教員同席のもと非公開で実施する。					や研究手法の発展! 終試験に向けて、 を展開できる。 成>学位申請まで、 に向けたデータ収: 載ができ、論文を付							
S B 目 到 C	分野の道 3, 4, 5,				分野の達 3, 4, 5, 6				分野の達 3, 4, 5, 6								
特記事項	し、内容	ドは担当教員に確認 至の詳細は、「初期	すること。							対する事前事後学(は担当教員に確認 の詳細は、「最終							
評価 方法	「受講票」により総合的に評価する。成績は、ABCD(A:100~80点、B:79~70点、C:69~60点、D:59~0点)の4段階評価とし、ABC(6点以上)を合格とする(60点未満は再提出)。									BC (60							
講義日程	時間割多	外照															
教科書 参考書																	

【前期】	講義時間	月	火	水	木	金	土
1 限	8:50~10:20						共通教育科目
2 限	10:30~12:00		法医病理学講義1~3	法医病理学実験1~4			六旭 秋日行日
3 限	13:00~14:30		法医解剖修練	特別研究I~III			
4 限	14:40~16:10						
5 限	18:00~19:30						
6 限	19:40~21:10						
【後期】	講義時間	月	火	水	木	金	土
1 限	8:50~10:20						共通教育科目
2 限	10:30~12:00		法医病理学講義1~3	法医病理学実験1~4			兴旭 狄月17日
3 限	13:00~14:30		法医解剖修練	特別研究I~III			
4 限	14:40~16:10						
5 限	18:00~19:30						
6 限	19:40~21:10						

<履修スケジュール> ※各自記録してください。

【前期】	講義時間	月	火	水	木	金	土
1 限	8:50~10:20						
2 限	10:30~12:00						
3 限	13:00~14:30						
4 限	14:40~16:10						
5 限	18:00~19:30						
6 限	19:40~21:10						

【後期】	講義時間	月	火	水	木	金	土
1 限	8:50~10:20						
2 限	10:30~12:00						
3 限	13:00~14:30						
4 限	14:40~16:10						
5 限	18:00~19:30						
6 限	19:40~21:10						